

正興電機製作所（6653） 企業分析レポート

最高益更新と次世代技術が牽引する成長シナリオ

エグゼクティブ・サマリー

業績（最高益更新と受注好調）

25/12期は売上高・各段階利益で過去最高を更新

特に環境エネルギー部門の受注高が急拡大し、豊富な受注残が今後の成長を担保

成長戦略（AIデータセンター・次世代電池）

従来の重電メーカーの枠を超え、AIデータセンター向け総合ソリューション事業へ展開

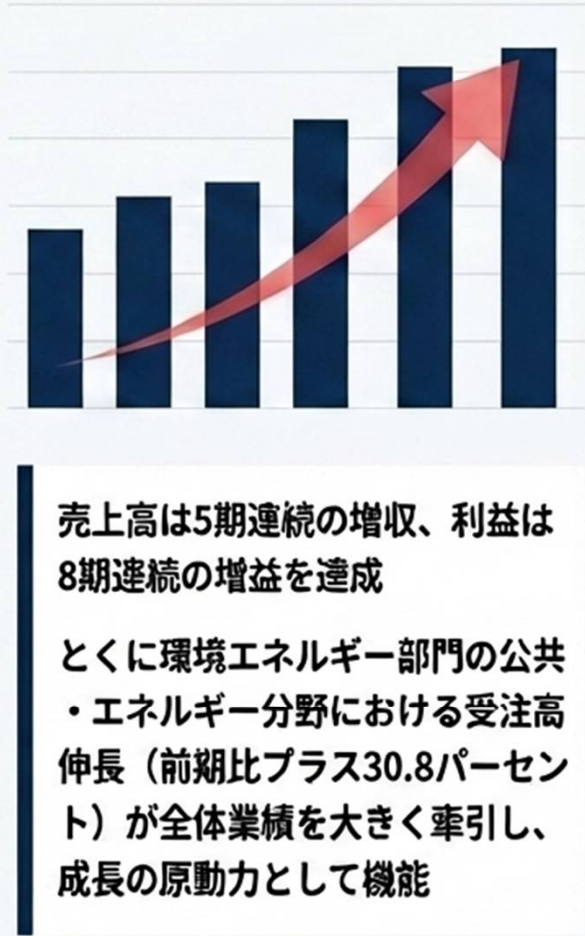
全固体電池やレドックスフロー電池など次世代技術の事業化ロードマップが明確化

投資判断（割安感とポジティブ評価）

堅調なファンダメンタルズと強力な成長テーマ（脱炭素・データセンター）を併せ持つにもかかわらず、セクター平均に対しバリュエーションの割安感が強く「ポジティブ」と評価

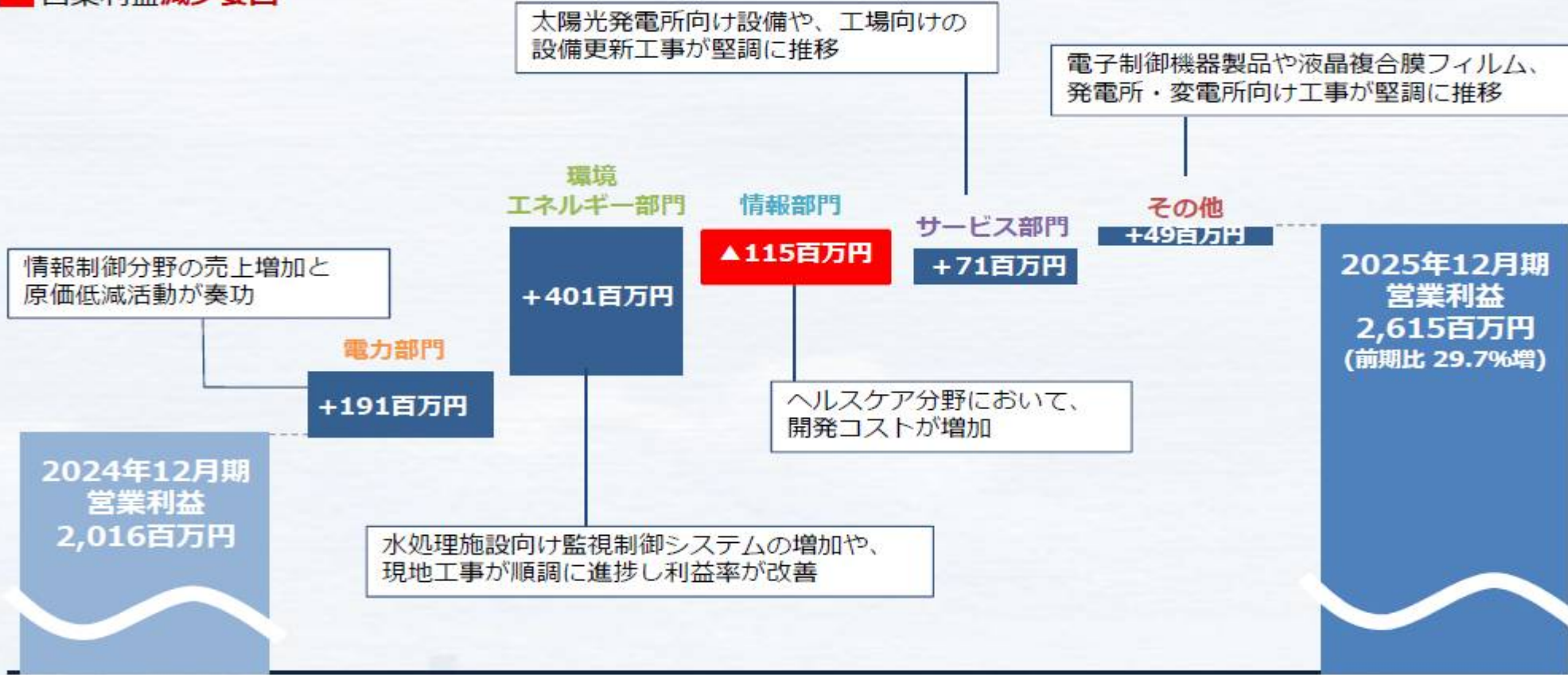
2025年12月期 損益計算書概略および前期比較

項目	2024年12月期 (百万円)	2025年12月期 (百万円)	前期比伸び率
売上高	29,099	31,380	+7.8%
売上総利益	5,194	5,951	+14.6%
販売管理費	3,178	3,336	+5.0%
営業利益	2,016	2,615	+29.7%
経常利益	2,359	3,126	+32.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,536	2,036	+32.6%
受注残高	29,559	37,374	+25.4%
受注高 (参考)	29,958	39,183	+30.8%



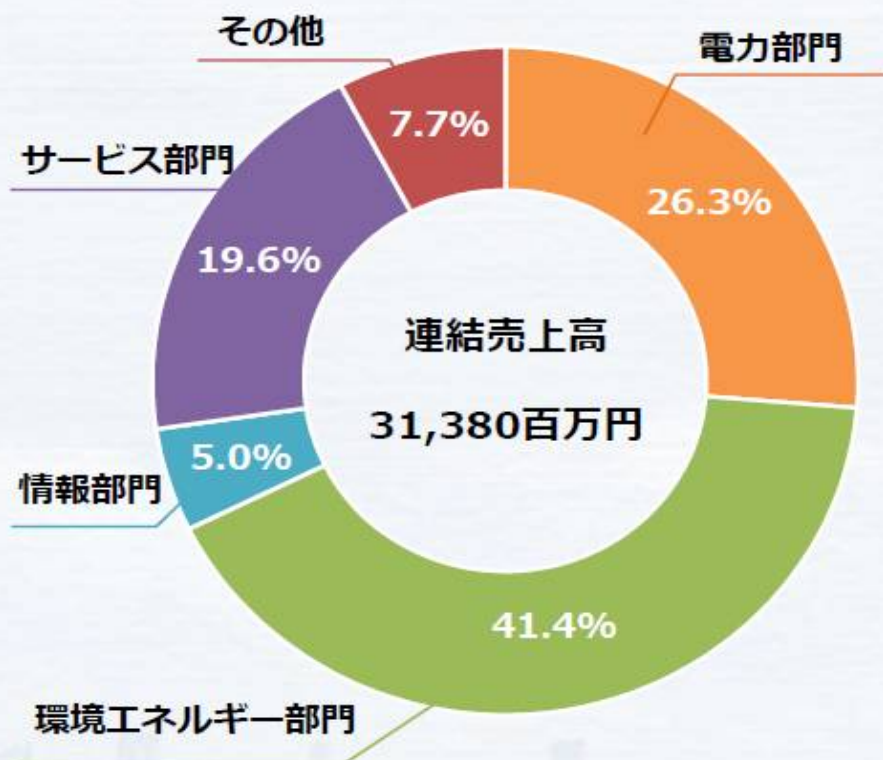
2025年12月期 営業利益の増減要因分析

- 営業利益増加要因
- 営業利益減少要因

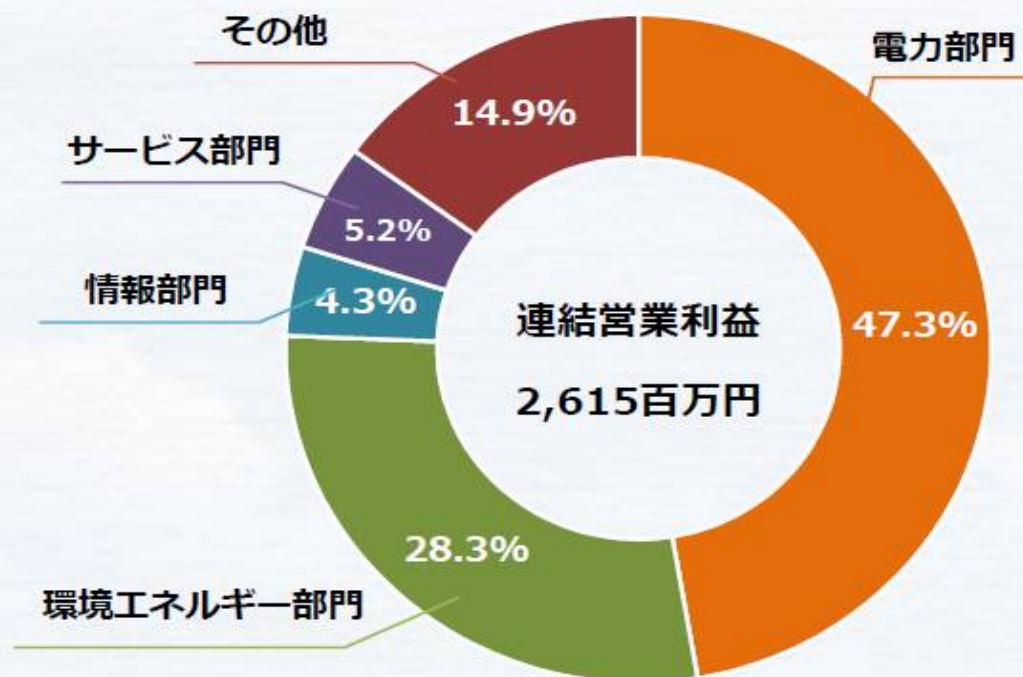


セグメント別売上高・営業利益（構成比率）

2025年12月期 売上高（部門構成比率）



2025年12月期 営業利益（部門構成比率）



セグメント別業績 電力部門

売上高

8,247 百万円

前年同期比(増減)

-0.5% (-38百万円)

営業利益

1,237 百万円

前年同期比(増減)

+18.3% (+191百万円)



✓情報制御分野において、水力中央給電制御所システム(OT)や、遠隔監視システムなどのスマート保安システムが堅調に推移。原価低減の取り組みも奏功し利益率が改善。

スマート保安システム

操作支援システム



遠隔監視システム



巡視点検口ロボット



真空開閉器



地中化用開閉器塔 電力機器製品



真空遮断器

電力・監視制御システム



水力発電所 監視制御システム



総合制御所システム

セグメント別業績 環境エネルギー部門

売上高	前年同期比(増減)
12,994 百万円	+9.4% (+1,114百万円) 
営業利益	前年同期比(増減)
739 百万円	+118.4% (+401百万円) 

✓ 公共分野の水処理施設向け監視制御システムや、データセンター向け大型案件が堅調に推移。
現地工事についても順調に進捗し利益率が改善。

環境公共システム

浄水場監視制御システム



下水処理監視制御システム



受配電盤

貯水場



非常用発電設備

高速インター



照明制御受変電システム

ダム

下水処理場

エネルギーソリューション



AIデータセンター



大規模蓄電所



太陽光発電システム



蓄電システム

▶セグメント別業績 情報部門

売上高

1,570 百万円

前年同期比(増減)

+0.3%(+4百万円)



営業利益

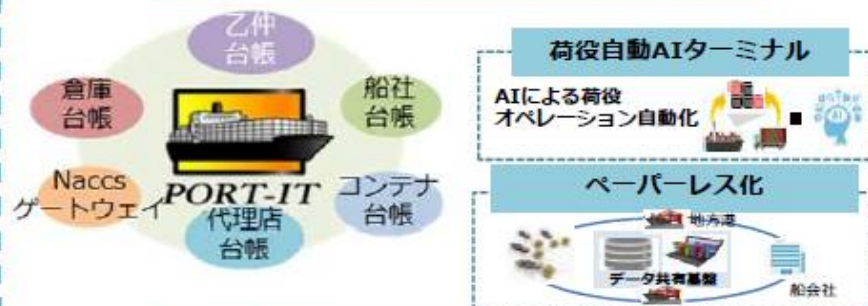
113 百万円

前年同期比(増減)

-50.5%(-115百万円)

✓スマート港湾の展開やシステム開発など、港湾分野及び開発分野は底堅く推移し売上高は増加するも、ヘルスケア分野での開発コスト増加により利益が減少。

港湾ソリューション (サイバーポート)



位置情報ソリューション=GPSトラッカー



ヘルスケアソリューション

健康状態の見える化

- 健康診断
- 生活習慣
- データ



産業医業務支援

- 保健指導業務
- ストレスチェック

ウォーキングイベント

- ウェアラブル端末、
健康機器との連携
- 健康ポイント

介護保険認定審査支援システム



EC・Eコマース・教育ソリューション

EC/EDO
イージーオーダー
感覚で独自性が高い
ECサイト



英語学習サービス



セグメント別業績 サービス部門

売上高

6,141 百万円

前年同期比(増減)

+24.0%(+1,187百万円) 

営業利益

135 百万円

前年同期比(増減)

+111.9%(+71百万円) 

✓ 太陽光発電所向け電気設備関連や工場向けの設備更新工事が堅調に推移し、売上・利益ともに増加。

環境・省エネ・再エネを軸とした事業展開とエンジニアリング力

高効率・省力化製品



ハイブリッドVCB



アモルファスTR

エネルギーソリューション



データセンターや蓄電所向け電気設備



再生可能エネルギー商材

エンジニアリング



施工・保守・メンテナンス

セグメント別業績 その他部門

売上高

2,426 百万円

前年同期比(増減)

+0.5% (+13百万円) 

営業利益

388 百万円

前年同期比(増減)

+14.6% (+49百万円) 

✓ 電子制御機器製品や液晶複合膜フィルム、また、発電所・変電所向け工事が堅調に推移。

オプトロニクス (液晶)

電源のON/OFFで、透明/白濁を瞬時に切替える液晶調光フィルム「SILF」



車載専用調光フィルム (救急車採用)



OFF 白濁



ON 透明



調光フィルム電子シェードキット
(日産セレナC28採用)



OFF 白濁



ON 透明

メンテナンス工事



水力発電所

電子制御機器



直流地絡検出器



漏電リレー・変流器

26/12期（中計最終年度）業績予想の見直しと背景

中計目標の修正

受注高	43,000百万円		(当初計画維持)
売上高	40,000百万円	→	36,000百万円
営業利益	3,600百万円	→	3,000百万円

需要減退ではなく「前向きな遅れ」

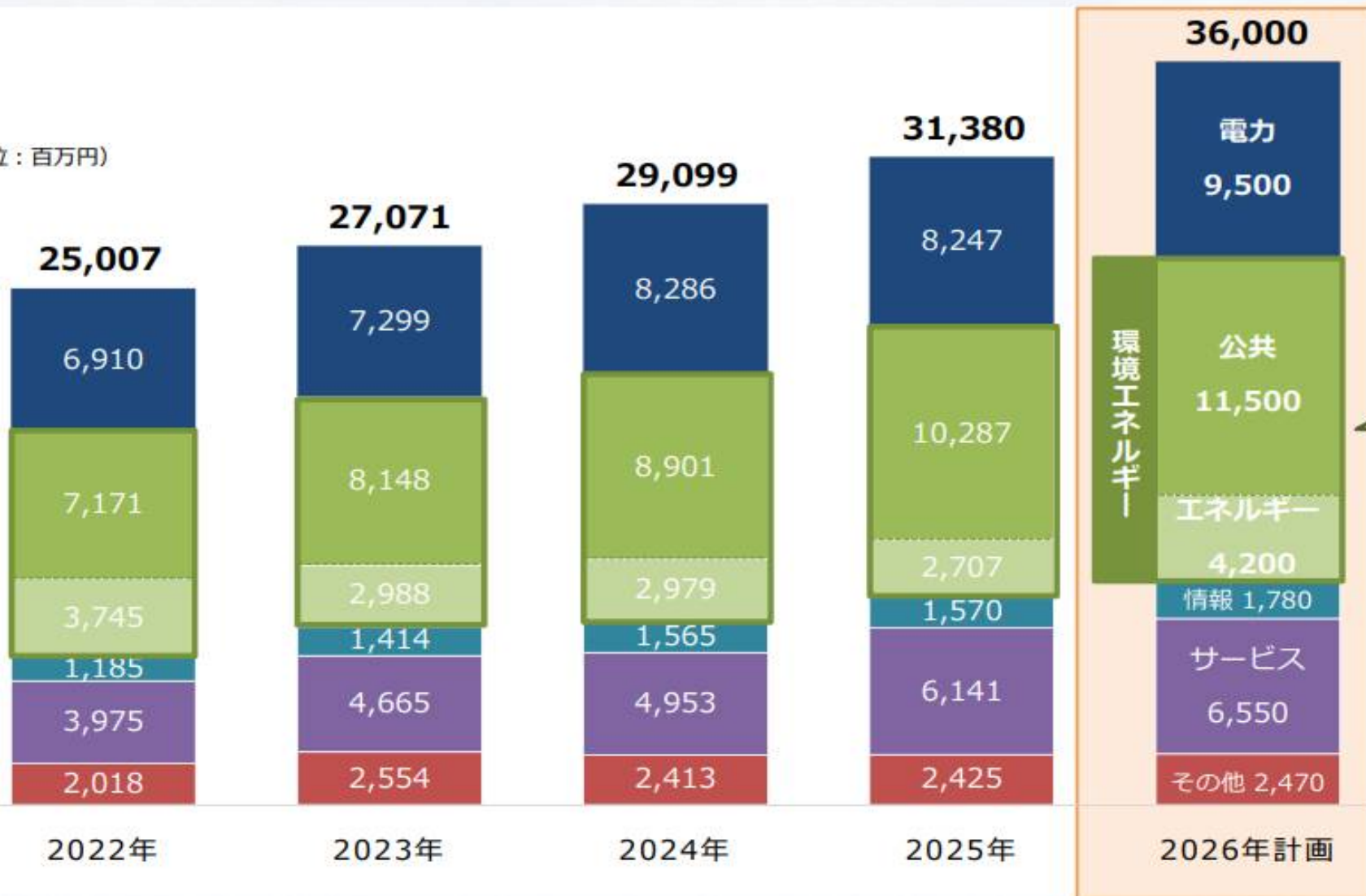
- ・ 公共・エネルギー分野の受注は急拡大しているが、AIデータセンター等を含む案件が大型化
- ・ 2～3年にわたる「長納期案件」が中心となり、売上計上時期が複数年度に分散・後ズレしている構造的要因

未来への先行投資

- ・ 営業利益率（8.3%）が前期と同水準に留まる理由として、ハード製品の構成比上昇を想定
- ・ 10月竣工予定の「ひびきの研究開発センター」（投資総額約40億円）に関わる成長投資費用を戦略的に織り込んでいる点を評価

▶2026年 セグメント別 売上計画

(単位：百万円)



前期比
+20.8%UP

▶2026年 重点成長分野

AIデータセンター



エネルギーソリューションに加え
AIサーバーソリューションなど、
総合ソリューションを提供

総合ソリューション

〇トータルエネルギーソリューション

～受電から配電、バックアップまで電力を安定供給～



特別高圧受配電システム



非常用発電システム



無停電電源装置

〇AIサーバーソリューション

～AIサーバの設置・保守・交換およびスマート保安を提供～



AIサーバー設置

GPU



保守・メンテナンス・サーバー交換



監視制御・予兆診断

スマート保安システム

重点成長分野① AIデータセンター関連

心臓部（エネルギーソリューション）

特別高圧受配電システム、非常用発電システム、無停電電源装置による「電力の安定供給」インフラの構築



総合ソリューション

脳（AIサーバーソリューション）

AIサーバーの設置・保守から、独自のスマート保安システムを用いた監視・予兆診断までのワンストップ提供



25年度時点で、環境エネルギー部門受注の約8%をデータセンター関連が占めており、現在進行中の大型案件（東京、大阪、九州）によりさらなる構成比の上昇が見込まれるストック型ビジネスへの布石

重点成長分野② GX（脱炭素）戦略の全体像

既存事業の拡張： 蓄電所向けエネルギー ソリューション

全国で建設が進む系統用蓄電所
に対し、特高・高圧受電から蓄
電・制御でをトータルでサポー
ナートし受注拡大を図る

未来技術の事業化： 次世代技術・製品

超流体化無機全固体リチウム電池
（モジュール開発・量産化）と、
レドックスフロー電池を活用した
電力需給制御システムの構築

ひびきの研究開発センター

本年10月竣工予定（投資額約40億円）

これらの次世代技術開発から実証、製品化までを一元的に推進し、早期事業化を実現するための中核拠点

次世代技術深掘り①

超流体化無機全固体リチウムイオン電池（技術概要）



KYUSHU ELECTRIC POWER CO.
KYUDEN I-PROJECT

台湾プロロジウム社製セルを活用し、九州電力と協業で24V電池モジュールの開発・量産化を推進

3 Core Advantages



高安全性

独自のセラミックセパレータとASM（オートセーフティメカニズム）により、過充電時でも電池自体が無効化され、熱暴走や可燃性ガスの発生リスクを完全に排除

高性能

エネルギー密度のブレークスルー（1セル 333Wh/kg）。電解液を持たないため、マイナス20℃の極低温環境下でも95%以上の容量維持率を誇る

高充放電

定格5Cでの超急速充電に対応し、産業用機器のダウンタイムを極小化

次世代技術深掘り② 全固体電池事業の実用化ロードマップ

産業用機器・建設機械向け
等への適用試験開始

CES2026（米国）での共同展示
「ひびきの研究開発センター」に
おけるパイロットプラント構築お
よびプレ生産開始

量産化体制の確立および
本格販売開始

2025

2026

2027

Target Market Expansion

双日九州との連携を通じた国内外市場への展開

高い安全性が求められる「重機・建機」「船舶」「航空機」「宇宙航空」といった高付加価値ニッチ市場を
初期ターゲットに設定



2026年度 重点成長分野：次世代技術 レドックスフロー電池

国際提携によるハード・ソフト融合

中国の蓄電池メーカー大手である大連融科储能技術発展社と提携し、日本市場向け大型レドックスフロー蓄電池システムの共同開発を開始



大型レドックスフロー
蓄電池システム



高度な電力需給
制御システム

全国に建設が進む系統用蓄電所向けに、特別高圧受電から蓄電モジュール、制御システムまでを一気通貫で提供

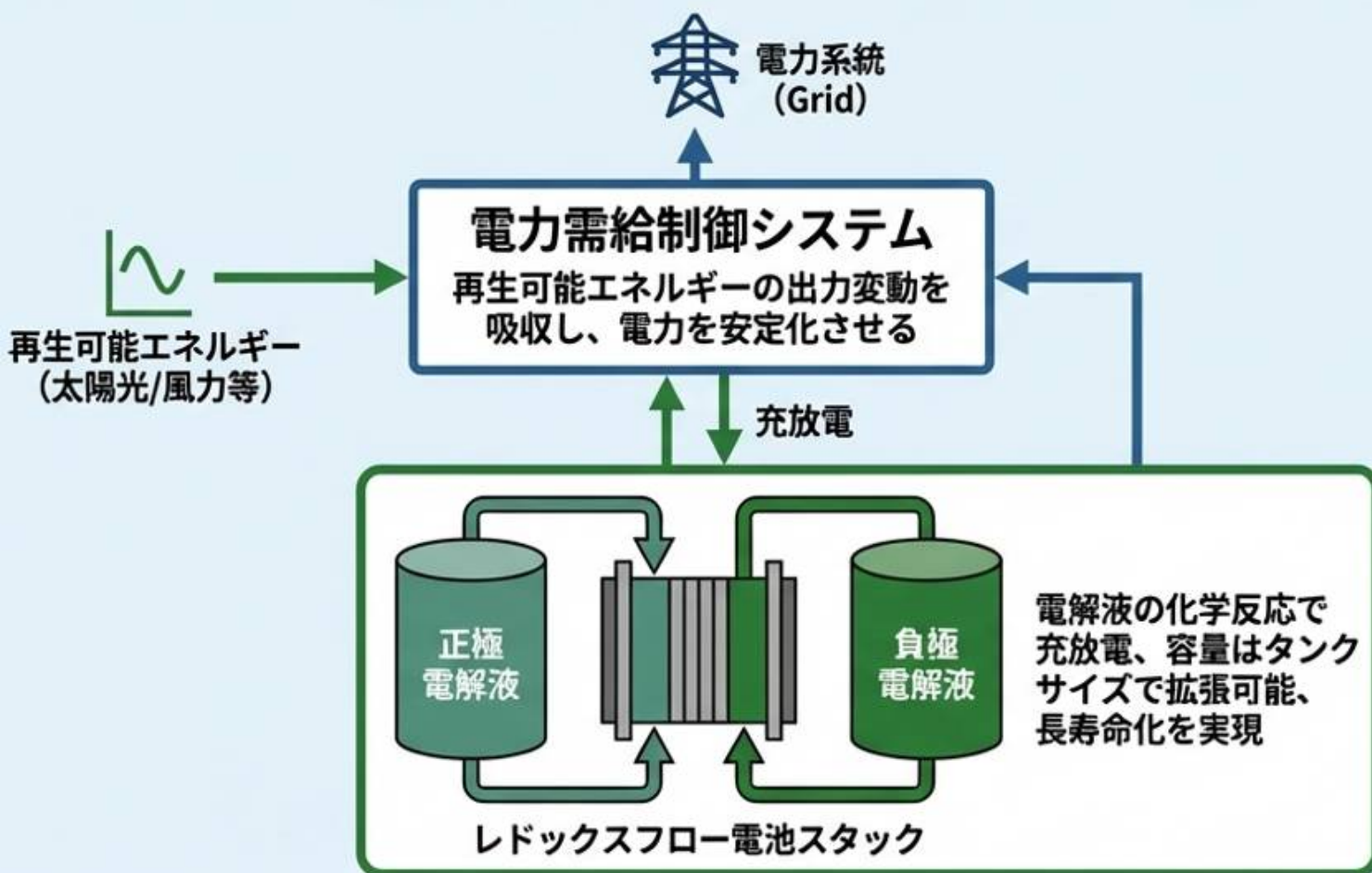
自社拠点「ひびきの研究開発センター」



実証拠点の整備：2025年10月に完成予定の自社大型拠点に本システムを実際に設置し、本格的な実証実験と事業化に向けた製品開発を加速させる

レドックスフロー電池と需給制御

大容量・長寿命が特徴であり、定置型のエネルギーインフラに最適なレドックスフロー電池を活用した新事業

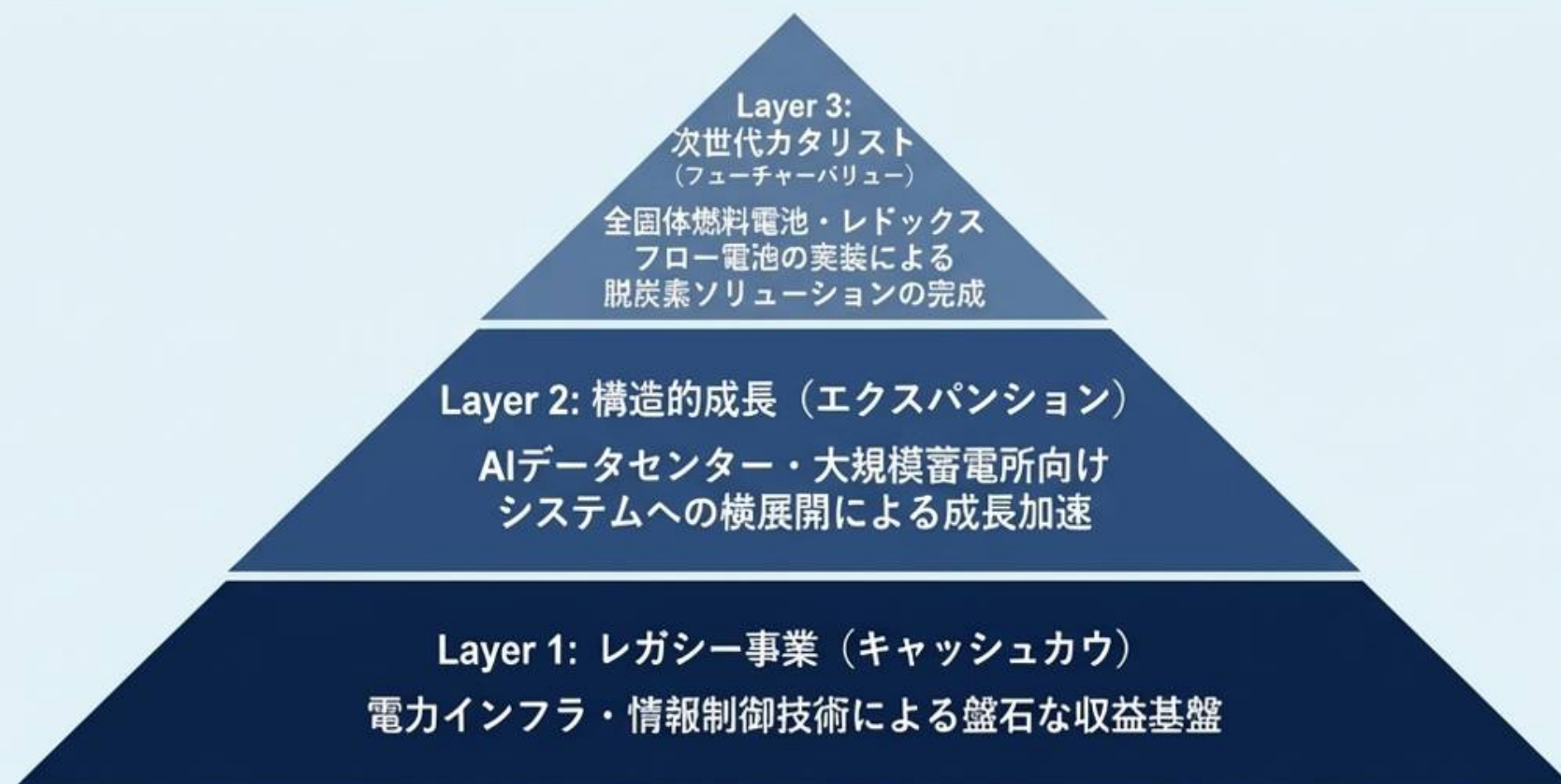


事業化への布石

- 完成間近の「ひびきの研究開発センター」に実機を設置し、自社設備を用いた実証実験を即座に開始
- スマートグリッド社会におけるエネルギーソリューションの要として、全固体電池と双璧をなすコア技術として育成

統合フレームワーク：次世代エネルギー・エコシステムの構築

・既存の電力網制御の知見がそのまま新時代のAI・GXインフラに直結する稀有な事業ポートフォリオ



株主還元方針と配当予想



- ・ 総括方針：株主への利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけ、事業成長に伴う継続的かつ安定的な増配方針を堅持
- ・ 2025年12月期実績：中間25円、期末25円の年間配当金50円を実施完了
- ・ 2026年12月期予想：中間配当27.5円、期末配当27.5円とし、前年比5円増配となる年間配当金**55円**を強気計画

企業評価（バリュエーション）と総括

【総合評価】 ポジティブ

業績の裏付け：受注高、売上高、各段階利益のすべてで過去最高を更新する強いモメンタムを維持しており、基礎的な事業競争力は着実に向上している

懸念の解消：中期経営計画の目標値見直しは、大型案件の売上計上時期のズレや将来への強気な研究開発投資が主因であり、ファンダメンタルズの毀損を意味しない

水準訂正への期待：今後、株式市場において関心が極めて高い「人工知能データセンター関連銘柄」および「定置型蓄電池・脱炭素関連銘柄」としての認知が進むことで、強い株価の水準訂正が期待される

【株価水準の強烈な割安感】

過去最高益を更新する成長フェーズにあるにもかかわらず、当社の株価指標はプライム市場における電気機器セクターの平均株価収益率（27.9倍）と比較して極めて割安な水準に放置されている

株価推移および相対比較チャート

正興電機製作所（証券コード：6653）



相対比較チャート



【参考資料】

2月28日開催 2025年12月期ウェブ決算説明会および同説明会資料

3月26日提出 2025年12月期有価証券報告書

3月17日～19日開催 スマートグリッド展 正興電機製作所ブース訪問取材内容などを基に作成